

1 小学校 低学年					
危ないことをしていないか考えよう					
指導する学年	低学年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1 時間
本時のねらい	安全な学校でも、危険がたくさんあることに気付く。 危険を予測し、安全に生活しようとする気持ちを持つ。				
使用する資料	運動場・校舎等のイラスト			基本的な指導内容	
				1 けがや事故を防ぐために	
学習内容・活動			指導上の留意点		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">導 入</div> <p>1. 危ないところはどこか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場や校舎など学校内には、危険があることに気付く。</li> <li>・ワークシートの危険な場面に○を付ける。 (P. 20にワークシート有り) (P. 45に黒板掲示用資料有り)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;">もし ○○したら どうなるかな？</div>			<p>○危険なことをしている場面に○を付けさせることで、安全な場所でも事故が起きることに気付かせる。</p> <p>○危険を考え、危険な遊びをしている場面を見つけることができたか。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">展 開</div> <p>2. 毎日の遊びの中に潜む危険について考え、話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もし○○したら、××になるかもしれない。」を考え、隣の人とペアで起こるかもしれない危険を予測する。</li> <li>・みんなの前で、2人で考えた危険予測を発表し、安全な遊び方について話し合う。</li> </ul> <p>(※もし、知らない人が、「お菓子をあげるから、車にのらない？」と言ってきたら、どうする?)</p>			<p>○「もし、ろうかをはしったら、すべてころんでけがするかもしれない。」など、友達と意見交換することで、様々な危険を予測させる。</p> <p>○ペア学習で、いろいろな危険を予測し、話したり、書いたりしているか。</p> <p>○「もし○○したら、××になるかもしれない。だから□□しよう(気を付けよう)。」行動や気持ちの解決策、改善策を全体で確認する。</p> <p>※事例は、学校の状況により取り入れるようにしたい。(各学校における被害状況を調査のうえ、安全教育の一環として犯罪防止教育を場合によって扱う。)</p>		

## まとめ

### 3. 本時の学習をまとめる

- ・学習を振り返り、これから安全に生活したり、遊んだりしていくために学んだことやがんばりたいことをワークシートに記入する。
- ・記入したことを発表する。

○学習を振り返ることで、安全な場所でも、様々な危険を予測したり、危険か安全かを判断したりできるようにする。

○発表後、教員の補足を入れてまとめる。

○ワークシートを読みとり、児童の気付きについて評価を行う。

安全な学校にも危険がたくさんあることを知り、危険を予測し、安全な生活を心がける。

## 評価

○学校内における危険を知り、危険を予測し、安全に生活できる方法を考えているか。  
(ワークシート)

### 《一口メモ》

- \* 事前指導…朝の会や帰りの会等で、運動場の遊び方や校舎内での過ごし方等に注意喚起を促しておく。
- \* 事後指導…朝の会や帰りの会等で生活を振り返り、自分が決めたことを守れたかどうか振り返りの時間をとるようにする。
- \* ワークシートの中で、自分がこれからできることを自己決定させ、事後活動として朝の会や帰りの会で、自分の行動を振り返り、児童の行動化につなげる。

※学級活動(2)ーカで展開例を書いているが、集団目標を決めるのであれば学級活動(1)ーウで実施する事も可能

関連する  
教科・行事等

道徳：低- (3) 善悪の判断、朝の会、帰りの会

展開例 1

あぶないことを していないか かんがえよう

1. あぶないところはどこかな？あぶないとおもうところに○をつけましょう。



ねん くみ なまえ ( )

2. うえのえから もし (○○○) したら、(×××) になるかもしれない。だから□□しよう。をかんがえましょう。

- ① もし ( ) したら、( ) なる  
かもしれない。 だから ( ) しよう。
- ② もし ( ) したら、( ) なる  
かもしれない。 だから ( ) しよう。
- ③ もし ( ) したら、( ) なる  
かもしれない。 だから ( ) しよう。
- ④ もし ( ) したら、( ) なる  
かもしれない。 だから ( ) しよう。
- ⑤ もし ( ) したら、( ) なる  
かもしれない。 だから ( ) しよう。

2 小学校 低・中学年					
危険を回避する大事なことば（いかのおすし・おひなくこ）					
指導する学年	低・中学年	指導場面	朝の会 帰りの会 等 常時指導	指導する時数	(10～15分)
本時のねらい	日常の安全指導と合わせて、毎日の登下校時における通学路等での安全について、児童自らが自分の生命を守ろうとする意識を向上させる。				
使用する資料	防犯教室用の小学校低学年向けリーフレット 「大切ないのちとあんぜん」(文部科学省) 等		基本的な指導内容		
			2 犯罪被害にあわないために 3 家族で守る安全 4 地域社会の一員として		
学習内容・活動			指導上の留意点		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>常時指導（朝の会・帰りの会 等）</b> </div> <p>子どもたちにことば一つ一つについてどのような内容があてはまるのかを考えさせる。</p> <p><b>【いか・の・お・す・し】</b></p> <p>・防犯対策紙芝居 はなちゃんのかえりみち～いかのおすし～（日本スポーツ振興センター）等を活用</p> <p><b>【お・ひ・な・く・こ】</b></p> <p>・「大切ないのちとあんぜん」（文部科学省リーフレット）等を活用</p> <p>※大切なことをしっかり覚えてもらうために「おひなくこ」「いかのおすし」があることを知らせる。</p> <p> 時間があれば こども 110 ばんのいえ等の紹介 等 (P. 40～42 参照)</p>			<p>・この言葉を覚えておくことがなぜ大切なのか、一つ一つの行動について、その状況や対処方法を交えながら説明する。</p> <p><b>【いかのおすし】</b></p> <p>いか…知らない人にはついて「いか」ない。 の…知らない人の車に「の」らない。 お…危ないと思ったら「お」おきな声を出す。 す…危ないと思ったらその場から「す」ぐ逃げる。 し…何かあったらすぐ大人の人に「し」らせる。</p> <p><b>【おひなくこ】</b></p> <p>お…おおごえを出して、すばやくにげよう！ ひ…ひとりではかえらない、あそばない！ な…なんでもはなそうがっこうのこと、とうげっこうのこと！ く…くるまにはぜったいのらない、ちかづかない！ こ…こうばんやきんじょのいえにしらせよう！</p>		
<p>※「いかのおすし」については 日本スポーツ振興センター 防犯対策紙芝居 はなちゃんのかえりみち～いかのおすし～ <a href="http://www.jpnsport.go.jp/anzen/branch/tokyo/tabid/418/Default.aspx">http://www.jpnsport.go.jp/anzen/branch/tokyo/tabid/418/Default.aspx</a> 「いかのおすし」のルーツを探る <a href="http://www.jpnsport.go.jp/anzen/branch/tokyo/tabid/422/Default.aspx">http://www.jpnsport.go.jp/anzen/branch/tokyo/tabid/422/Default.aspx</a> 等を活用</p> <p>※「おひなくこ」については 資料編（文部科学省リーフレット）「大切ないのちとあんぜん」を活用（P. 47 参照）</p> <p>※防犯教室の事前、事後学習で活用することで、児童の防犯への意識を高める。</p>					
関連する 教科・行事等	朝の会、帰りの会、登下校の指導等				

3 小学校 中・高学年

安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～

指導する学年	中学年 高学年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1時間
本時のねらい	危険(犯罪)を予測し、起こりうる犯罪から身を守る方法等を考えるとともに、危険な場面を想定し、危険を回避する行動を実践することができる。				
使用する資料	文部科学省DVD「安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～」(平成25年)			基本的な指導内容	
				2 犯罪被害にあわないために 3 家族で守る安全 4 地域社会の一員として	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入



1. DVD「安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～」を視聴する。

生活安全(防犯)  
低学年・中学年・高学年

※ケース⑥まで視聴(前半 約6分)

- ケース①声をかけられる
- ケース②つきまとわれる
- ケース③写真を撮られる
- ケース④いやなことをされる
- ケース⑤暴力を受ける
- ケース⑥つれさられそうになる

○本時の内容について理解させ、真剣な態度で臨む意識を持たせる。

※ケース⑥以降(後半)は全てのケースの対処法になっているため、児童で解決方法を考えた後に視聴

○DVDの内容が特別なことではないことに気付かせるために高知県警察ホームページ「こうちのまもり」から県内(地域)の不審者情報等を児童に紹介することで、より自分の身近で起こる可能性があることを意識させる。

危険から、自分の身を守るためにはどうしたらよいでしょう？

展開

2. DVDの事例をもとに危険を予測し、回避する対処方法を考える。

・どうしたらこういったことから身を守るのかワークシートに個人で記入する。

- ケース①声をかけられる
- ケース②つきまとわれる
- ケース③写真を撮られる
- ケース④いやなことをされる
- ケース⑤暴力を受ける
- ケース⑥つれさられそうになる

○身近に起こるかもしれない危険を予測する力とその危険を回避する望ましい解決方法に気付くよう支援する。

3. 個人で考えたことを班で話し合い解決方法を考え発表し、よりよい身の守り方を考える。

- ・断る ・無視する
- ・大声を出して逃げる・防犯ブザー
- ・店やこども 110 番の店に逃げ込む
- ・入りやすく見えにくい場所では気を付ける

等

### まとめ

4. DVDの後半を自分たちの意見と比較しながら視聴する。(後半約7分)

- ・ケース⑥までの解決編を視聴する。

5. 学習したことを振り返り、危険な場面に直面したときにどのように行動すればよいか確認する。

- ・記入したことを発表する

○各班から出た解決方法の共通点や相違点、疑問点など気の付くことを出させ、よりよい身の守り方をみんなで考えさせる。

いか…知らない人にはついて「いか」ない。  
の…知らない人の車に「の」らない。  
お…危ないと思ったら「お」おきな声を出す。  
す…危ないと思ったらその場から「す」ぐ逃げる。  
し…何かあったらすぐ大人の人に「し」らせる。

### 評価

○自分の身を守るためにこれからどんなことに気を付けていけばよいか自分の考えを書くことができているか。  
(ワークシート)

日頃から、危険を予測し、入りやすく見えにくい場所を回避することが大切であることを理解する。

### 《一口メモ》

- \* 事前指導…朝の会、帰りの会等で不審者情報を児童に伝える。
- \* 事後指導…授業後の児童の危険を回避する行動化について朝の会、帰りの会等で見取っていく。

※DVD「安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～」(文部科学省)  
平成25年3月に小学校に配布

※高知県警察ホームページ こうちのまもり

<http://www.police.pref.kochi.lg.jp/index.htm>

関連する  
教科・行事等

朝の会、帰りの会

展開例3

安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～

年 組 氏名 \_\_\_\_\_

1. 映像を見て考えましょう。「あなたならどうしますか？」

ケース①	声をかけられる	あなたならどうする？
		
ケース②	つきまとわれる	あなたならどうする？
		
ケース③	写真をとられる	あなたならどうする？
		
ケース④	いやなことをされる	あなたならどうする？
		

ケース⑤	暴力を受ける	あなたならどうする？
		
ケース⑥	つれさられそうになる	あなたならどうする？
		

2. みんなで話し合っよりよい解決方法を考えましょう。

	みんなで考えた解決方法
ケース①	
ケース②	
ケース③	
ケース④	
ケース⑤	
ケース⑥	

3. あなたは今度からどんなことに気を付けて登下校しますか。

---



---



---



---



---



---

4 中学校 全学年

事件に巻き込まれないために

指導する学年	全学年	指導場面	朝の会 帰りの会 等 常時指導	指導する時数	(10~15分)
本時のねらい	事件や事故の起こりやすい夕方以降の行動から、危険（犯罪）を予測し、起こりうる危険から身を守る方法等を考える。				
使用する資料	文部科学省DVD「安全な通学を考える～加害者にもならない～」(平成24年3月)			基本的な指導内容	
				2 犯罪被害にあわないために	

学習内容・活動	指導上の留意点
<p>1. DVD「安全な通学を考える～加害者にもならない～」の「事件に巻き込まれないために」(1分7秒)を視聴する。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の乗り方は安全か？</li> <li>・危険を予測する力をつける！</li> <li>・気持ちを意識してみよう！</li> <li>・地域の安全を守る役</li> <li>・事件に巻き込まれないために</li> <li>・自転車の賠償責任、点検・整備等について</li> </ul> </div> <p>2. ワークシート「事件に巻き込まれないために」に考えたことを書き込む。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・夕方、夜間の防犯について、自分の生活と比較しながら考える。</li> <li>・学校や自宅周辺の危険な場所(入りやすく、見えにくい場所)はないか考える。</li> </ul> <p>3. 記入したことを発表し、学習したことを振り返り、危険な場面に直面したときどのように行動すればよいか確認する。</p>	<p>○夕方、下校時の自分の行動を振り返らせながら視聴するよう伝える。</p> <p>○自分の下校時の行動を振り返らせながら記入するようにさせる。</p> <p>○危険を予測する力とその危険から回避する望ましい方法に気付くよう支援する。</p> <p>○机間指導により、記入が進まない生徒に対し、適切な支援を行う。</p> <p>○日頃の危機管理意識が大切であることに気付かせる。</p> <p>○日頃の生活行動で、スキを見せない行動が大切であることも理解させる。</p>

関連する教科・行事等	<p>※指導に使用するDVD教材 「安全な通学を考える～加害者にもならない～」(文部科学省) 平成24年3月配布 朝の会、帰りの会、道徳：中学校1- (3) 自主、自立、責任</p>
------------	---

# 事件に巻き込まれないために

年 組 氏名 ( )

## ■夕方・夜間の防犯を考える

中高生の生活にはさまざまな自己判断が必要になってくる。

行動範囲が広がり、活動する時間も長くなる。どこに危険があるかを考え、自分の安全を守れるようにしなければならない。

一つの例としての夕方・夜間の事件を防止することを考えてみよう。



### ☆映像を見る

1. 学校や自宅周辺で、防犯上、「夕方通るにはちょっと危ないかな」と思う場所をあげてみよう。

---

---

---



2. 上であげた場所を避けると、何分くらい多くかかるだろう？

---

---

---

3. 危険があることがわかっているのに夕方以降に外にいる時、どんな気持ちになっているのだろう？

---

---

4. 上の設問3のような時、出かけなくてすむ解決方法はあるだろうか？

---

---

---

### 知って納得 豆知識

#### 自分の身を守るのは自分！

学校の帰り、家に着く頃にはもう暗くなっていることも多い。ぜひ「自分の身を守るのは自分」という意識をもってほしい。基本は、なるべく明るい道を選んで複数で行動することだ。暗い道を一人で歩くのは極力避けたい。また周囲によく注意して、不審な動きがあれば察知できるようにしよう。防犯ブザーなど防犯グッズの携帯も有効だ。危険ポイントは日ごろからチェックして、いざという時の対応を考えておこう。



5 高等学校 全学年

地域社会の安全への貢献について考えよう

指導する学年	全学年	指導場面	ホームルーム活動	指導する時数	1時間
単元のねらい	自らの安全を確保する方法を理解し、いざという時に適切な行動を実践する力を身に付けるとともに、地域社会の安全にも貢献する大切さについて理解を深める。				
使用する資料	県内の声かけ事案や不審者情報 犯罪認知件数の推移 県内の高校生自主防犯組織の活動			基本的な指導内容	
				2 犯罪被害にあわないために 4 地域社会の一員として	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 不審者の情報や新聞記事から犯罪事例を紹介する。

※高知県警察ホームページ参照

「こうちのまもり データ・ボックス」

- ・声かけ
- ・つきまとい
- ・盗撮
- ・わいせつ
- ・誘い込み
- ・露出 等

【参考事例】

(例1)

6月24日(月)8:20頃

つきまとい 危険行為

発生場所 高知市棧橋通マンション駐車場

被害者 高校生 男 不審者 性別 男

年齢 30代 身長 不詳

服装・身体特徴 不詳

事案概要 男子高校生が、自宅マンション駐輪場で自転車に乗ると、自転車に乗った男が近づいてきて、進路妨害や幅寄せ、傘で叩くなどしてきたもの。

(例2)

7月3日(水)7:40頃

声かけ等

発生場所 高知市曙町2丁目付近

被害者 高校生 女 不審者 性別 男

年齢 30代 身長 175cm位

服装・身体特徴 やせ型、ポロシャツ

事案概要 車に乗った男が現れ「学校へつんで行ってやろう」と声をかけられ、女子高生が断ると、降りてきて左腕を掴んで車に押し込もうとしたもの。

○不審者情報や新聞記事の犯罪事例は、身近に起こりうる事例であることを伝える。

(下記事例を選定する時は、生徒のプライバシーや心理的状況等に十分配慮して選定する)

・不審者情報の事例について解説し、生徒から出た意見を取り上げながら進める。

展開

犯罪から身を守るとともに自分たちにできることを考えよう

2. 事例のようなことから身を守るためにはどうすればよいか考えたことを発表する。

※どうすればこうしたことに巻き込まれずに済むのかワークシートに書き込む。個人で書き込んだ後に班、グループで出し合いまとめて発表する。

○できる限り多く、犯罪から身を守る方法を想起させる。その際に、個人だけではなく自分たち学生が協力して、犯罪を防ぎ、身を守ることができないかという視点を教師の方から生徒に投

- ・一人にならない ・集団で移動
  - ・あやしい車や場所に近づかない
  - ・入りやすく見えにくい場所を避ける  
(高い塀のある公園や空き地、背の高い草むら、人通りの少ない道、暗い場所)
- ※出てきた意見の共通点や相違点を洗い出し、犯罪から身を守る方法を全員で確かめる。

3. 県内で活躍している学生の自主防犯組織を紹介する。

- ・室戸高校の子ども安全みまもり隊
- ・自主防犯組織（佐川中学校）
- ・嶺北高校の嶺北フリーゲルス
- ・高岡高校サンスマイル

等の活動を紹介する

**まとめ**

4. ワークシートに犯罪を防ぐために自分たちが  
できること、やろうと思うことを記入する。

地域社会の安全に貢献することの大切さについて理解し、進んで活動しようとする気持ちをもたせる。

げかける。

班・グループ活動では

- ①出てきた意見を批判しない。
- ②奔放なアイデアも歓迎する。
- ③質より量を重視する。
- ④他のアイデアを修正、改善、発展、結合する。

○同年代の生徒の活動を知らせ、地域の自主防犯活動への意欲を促す。

**評価**

地域社会の安全に貢献するために、自分たちができることを考えている。

《一ロメモ》

○地域の防犯を担当している方や警察にゲストティーチャーとして来ていただき、犯罪から身を守るためにできることを話してもらおうという方法も考えられる。その場合は授業のねらいからはずれないように事前の打合せを行っておく。

\* 地域の自主防犯組織などの活動に参加してみましよう。

**県内で活動している（学生）自主防犯組織**

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| ・嶺北フリーゲルス         | ・高岡高校サンスマイル       |
| ・中村高校あんぜん隊        | ・AKV 安芸高校防犯ボランティア |
| ・清水高校ボランティア部      | ・香美パトロール（山田高校）    |
| ・佐川高校地域まもる隊       | ・佐川中学校            |
| ・子ども安全みまもり隊（室戸高校） | ・はたのう防犯ボランティア     |
| ・DAC（太平洋学園）       | ・STH（宿毛工業高校）      |

関連する  
教科・行事等

登下校時

展開例 5

## 地域社会の安全への貢献について考えよう

年 組 氏名

<p>事例 1</p> <p>6月24日(月)8:20頃 つきまとい 危険行為 発生場所 高知市棧橋通マンション駐車場 被害者 高校生 男 不審者 性別 男 年齢 30代 身長 不詳 服装・身体特徴 不詳 事案概要 男子高校生が、自宅マンション駐輪場で自転車に乗ると、自転車に乗った男が近づいてきて、進路妨害や幅寄せ、傘で叩くなどしてきたもの。</p>	<p>事例 2</p> <p>7月3日(水)7:40頃 声かけ等 発生場所 高知市曙町2丁目付近 被害者 高校生 女 不審者 性別 男 年齢 30代 身長 175cm位 服装・身体特徴 やせ型、ポロシャツ 事案概要 車に乗った男が現れ「学校へつんで行ってやろう」と声をかけられ、女子高生が断ると、降りてきて左腕を掴んで車に押し込もうとしたもの。</p>
<p>どうしてこんな事が起こったのだろう？</p>	<p>どうしてこんな事が起こったのだろう？</p>
<p>どうしたら防ぐことができたのだろう？</p>	<p>どうしたら防ぐことができたのだろう？</p>
<p>今度から、犯罪を防ぐために私たちができること、やろうと思うことを書きましょう</p>	

6 その他の事例 小学校 中学校

学校への不審者侵入防犯訓練（実施計画例）

指導する学年	小学校（全学年） 中学校（全学年）	指導場面	特別活動 （学校行事）	指導する時数	1 時間
本時のねらい	不審者侵入に対し、教職員が連携を図りながら、児童生徒等の安全を守るため、迅速、適切に行動できるようにする。 児童生徒等が自分の身を守るため、落ち着いて素早く行動できるようにする。				
使用する資料	学校の危機管理マニュアル（文部科学省） －子どもを犯罪から守るために－		基本的な指導内容 2 犯罪被害にあわないために		

**事前指導（朝の会・帰りの会）**

- ・ 不審者侵入訓練についての確認  
児童生徒への事前指導
  - ①訓練時の非常ベルや緊急放送について知らせておく
  - ②有事の際の対処方法や避難の仕方について指導しておく

想定：凶器を隠し持った不審者が、正面玄関から侵入し、声かけにも応じず、校舎の西階段から3階の教室に押し入ろうとした状況を想定し防犯訓練を実施。

教職員の動き・対応

児童の動き

留意点

**○凶器を隠し持った不審者が保護者を装い玄関から侵入してくる**

1. 不審者が校舎に侵入してくる  
○第一発見者が声をかける。  
発見者「どちらにご用ですか？」  
不審者「忘れ物を届けに」  
発見者「お預かりします」  
不審者「自分で持っていく！」  
※対応するときは、身を守るために1～1.5m離れる。  
○別室（職員室等）に案内し、不審者を隔離するよう試みる。

○児童生徒は各教室にて、授業を実施中。

○不審者の態度や言動、持ち物等の把握を行い、凶器の所持についても報告できるようにする。

- 対応職員がすぐに避難できるような部屋（学校の出入口付近）。
- 支援要請時のサインも決めておく。

**○不審者の隔離または退去に失敗！**

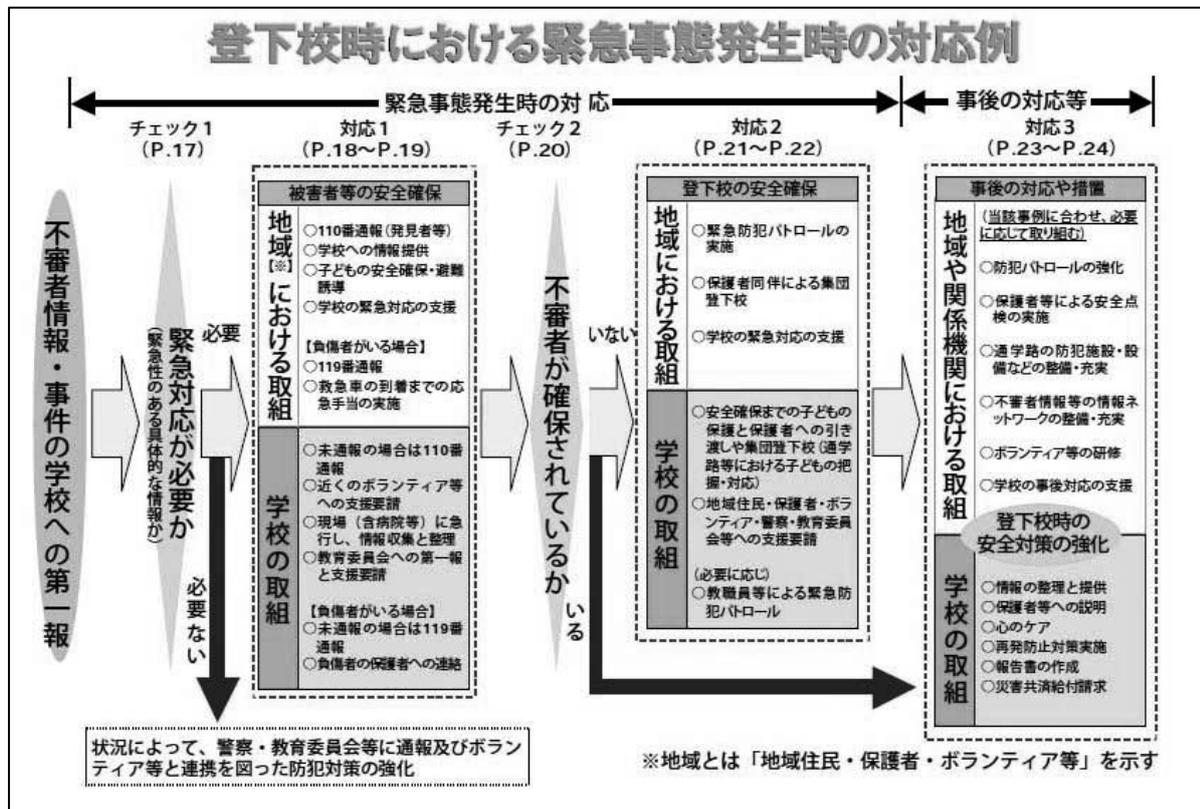
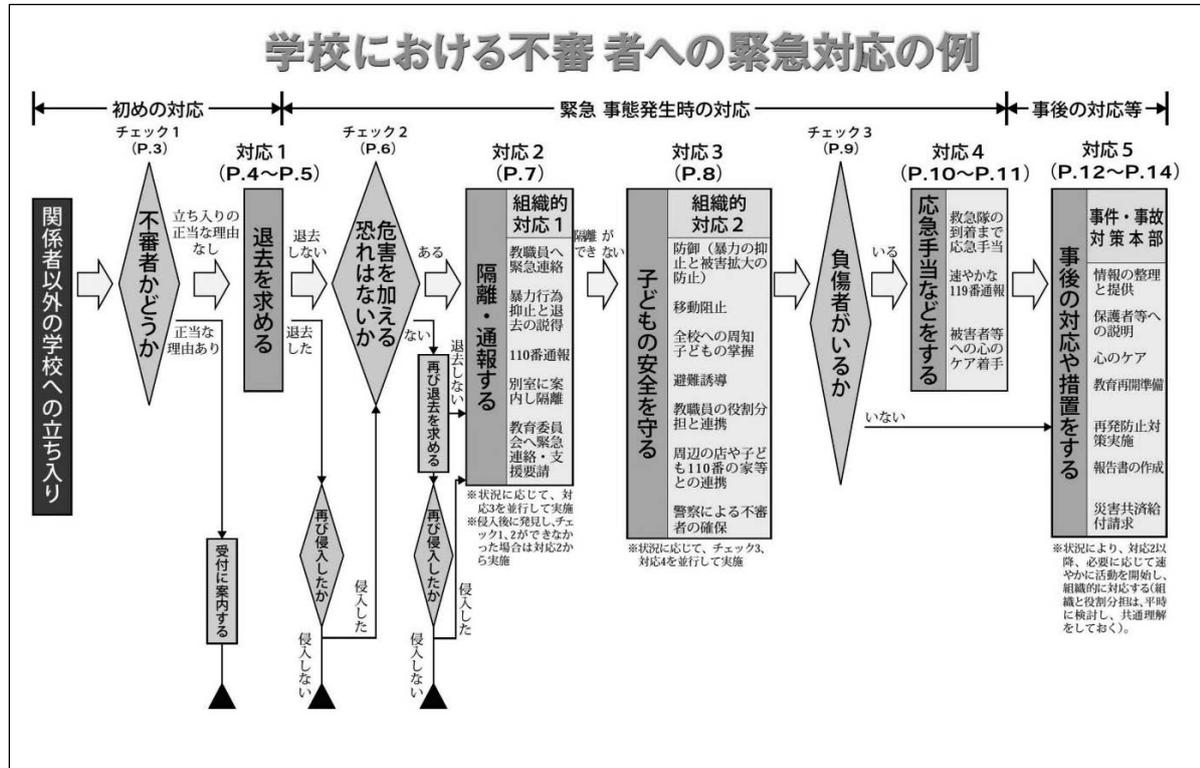
**声かけに応じず、凶器を出し、西階段から教室に向かおうとする**

<p>2. 不審者と判断し、防御対応を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発見者は不審者の侵入を職員室に通報する (例えば、通報ブザーや非常ベル、大声で知らせるなど)</li> <li>○(教頭)緊急放送にて、教職員と児童生徒に防御指示を出す</li> <li>○(学校長)110番通報をする</li> <li>○その他の教職員は教室施錠後、直ちに現場に駆けつけ、不審者対応にかかる</li> </ul>	<p>○指示に従い、速やかに避難行動をとる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二次被害防止のため、教職員は施錠を優先的に行う(教室待機の場合)</li> <li>○施錠後、不審者対応職員と児童生徒管理対応職員とに分かれて行動</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><b>緊急放送の例</b></p> </div> <p>〈待機と支援要請の場合〉 「これから緊急集会を開きますので、次の放送があるまで全員教室で待機してください。〇〇係の先生は、〇〇へ集まってください。」</p> <p>〈避難指示の場合〉 「これから緊急集会を開きますので、全員〇〇に集合してください。なお、〇年生は、西階段ではなく、東階段を使用してください。」</p> <p>※状況に応じて、教室で待機もしくは運動場や体育館など児童生徒の安全を確保しつつ、適切な避難行動をとらせるようにする。</p>		
	<p>○避難指示に従って、運動場に避難する</p>	<p>○避難した場所での児童生徒の点呼、安否確認を行う</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><b>○不審者を3階トイレ方向に追い込み、駆けつけた警察官とともに取り押さえる</b></p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○不審者対応教職員は防犯用具(さす又等)で協力し、不審者を児童生徒から離れた方向に追い詰める</li> <li>◇駆けつけた警察官により、身柄を拘束される</li> </ul>		<p>○教職員の目的はあくまでも不審者を児童生徒から隔離または動けなくして、警察官の到着まで、児童生徒の安全を確保することである</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><b>○不審者引き渡し完了(安全確認)後、児童生徒の安否確認及び心のケアを行う</b></p> </div>		

<p>3. 不審者の引き渡し確認後、児童生徒等の安全を確認し、体育館に集合する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校長から訓練について講評する</li> <li>○協力を得た警察の方からも話をしてもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指示に従って、体育館に集合する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心のケアの観点も含め、児童生徒の状態を確認する</li> </ul>
<p><b>児童生徒や教職員の負傷者等の確認について</b></p> <p>※ <b>負傷者がいるか</b>        不審者が暴力行為を働いた場合は、児童生徒等や教職員が負傷することが考えられる。それは、必ずしも教職員がついている授業中だけでなく、休憩時間や放課後などを含めた活動・時間帯に発生する恐れがあり、それぞれの場合に応じて、負傷者の有無などの情報を収集できる体制を整えておく必要がある。</p> <p>※ <b>応急手当などをする</b>        児童生徒等や教職員に負傷者が出た場合には、迅速に「119番」に通報し、救急車を要請する必要がある。それと同時に、救急車が到着するまでの間、負傷者の状態に応じて、速やかに止血、心肺蘇生法などの応急手当を行い、症状が重篤にならないようにする。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>事後指導（朝の会・帰りの会）</b></p> </div> <p>○訓練で学んだ不審者への対応を振り返るとともに、1人の時でも対処できるよう、登下校時における不審者への対応についても合わせて指導しておく。</p> <p>○児童生徒の発達段階を考慮しつつ、状況に応じた行動をとる必要があることを理解させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 訓練の流れについては、あくまで展開例であるので、各学校の実態に合わせて内容を検討して実施する。</li> <li>* 地域の警察署に協力を依頼し、訓練のシナリオや当日の打合せを入念に行っておく。</li> <li>* 当日の流れや教職員の動き等については、危機管理マニュアルに基づいて、必ず教職員間で確認をしておく。その際、不審者対応職員や児童生徒管理対応職員、負傷者への対処や安否不明者等への対応等、緊急対応の際の役割をあらかじめ決めておくことで、迅速な情報収集と的確な対処を行うことができる。</li> <li>* 訓練実施後は、職員会議等で必ず検証する機会を設け、検証に基づいて危機管理マニュアルを修正し、実効性のあるものにしていく必要がある。</li> <li>* 個人差はあるが、訓練によって衝撃を受け、心のケアが必要な児童生徒も出てくる場合も考えられるため、事後指導において、児童生徒の状態を的確に把握することが大切である。</li> <li>* いざという時に対処できるよう、応急手当等の実技研修を実施し、教職員が技能を身に付けておく必要がある。</li> </ul> </div>		
<p>関連する 教科・行事等</p>	<p>朝の会、帰りの会、登下校等</p>	

その他「緊急対応例」

避難訓練は危機管理マニュアルに基づいて、教職員の安全対応力を高めるために行うものである。また、こうした避難訓練によって、対応の仕方を見習う生徒等が事前に経験しておくことは、安全教育のうえでも非常に有効である。



提供:「学校の危機管理マニュアルー子どもを犯罪から守るためにー」文部科学省 平成19年11月

## 応急手当等について

児童生徒や教職員が負傷した場合には、状況によって救急車を要請する必要がある。その際に、迅速に「119番」に通報するとともに、救急車が到着するまでの間、負傷者の状態に応じて、教職員は速やかに止血、心肺蘇生法などの応急手当を行い、症状が重篤にならないようにしなくてはならない。そのためには、消防署や日本赤十字社等の協力を得て実技研修を実施し、教職員が応急手当等の技能の習得に努めることが大切である。

# 一次救命処置(BLS)

## — 心肺蘇生(CPR)とAED —

**「人が倒れている」 近づくその前に**

- 周囲の安全を確認する(2次事故防止)
- 傷病者の状態を確認する(大出血の有無など)

- 1 意識を確認する**
  - 肩を叩いて、声をかける
- 2 協力者を求める**
  - 119番通報とAEDの手配をお願いする
- 3 呼吸をみる**
  - 10秒以上かけないで、胸とお腹をみて、普段どおりの呼吸があるかを確認する
  - ※死戦期呼吸を普段どおりの呼吸と間違えないようにする
- 4 胸骨圧迫を30回**
  - 「胸の真ん中」を手掌基部で垂直に押し下げる
  - 圧迫の深さは「少なくとも3cm」
  - 圧迫の速さは「少なくとも100回/分」
  - 圧迫は「強く・速く・絶え間なく」を意識する
- 5 できれば、人工呼吸を2回**
  - 気道を確保する(頭部を後ろに下げて、あご先を上げる)
  - 鼻をつまんで口を覆い、胸が上がるのがわかる程度吹き込む
  - 1回の吹き込みに約1秒かける
  - 吹き込んだら、つまんだ手と口を離す
- 6 メッセージに従ってAEDを使う**
  - ※AEDのメッセージは、機種により若干の違いがある

**STEP 1**

電源を入れる



**STEP 2**

「電極パッドを装着してください」



- イラストのとおり貼る
- 電極パッドは、密着させる
- 水濡れや貼り・塗り薬などは取り除く
- コネクターがあるものは差し込む

**STEP 5**

胸骨圧迫と人工呼吸の繰り返し

- 直ちに
- 4 胸骨圧迫
- 人工呼吸

**STEP 4**

「電気ショックが必要です」



- 傷病者から離れる
- ショックボタンを押す

**STEP 3**

「心電図を解析中です」

- 傷病者から離れる

**STEP 6**

以降もAEDのメッセージに従う

**STEP 7**

医師または、救急隊に引き継ぐ

- AEDの電源は切らず、電極パッドは着けたままにする





**日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

提供：日本赤十字社